

令和 6 年議会運営委員会調査視察報告書

日 程	令和 6 年 7 月 11 日（木）・12 日（金）
視察先 及び 調査事項	長野県岡谷市議会（11 日午後 3 時 30 分～4 時 30 分） 1 政策提言について 2 議会報告会について
	長野県松本市議会（12 日午前 9 時～11 時） ・ 議会活性化の取組について (1) 議会への住民参画に関連する取組について (2) 政策提言について (3) 上記以外の取組について
参加委員	谷川眞司（委員長）、松田弘幸（副委員長）、肝付隆治、小西洋一、西村正之、野瀬貴則、眞下隆史、[上羽和幸議長]
調 査 概 要	
<視察に至る背景と目的> 本市議会においては、本年 12 月から委員任期を 2 年とすることを見据え、すべての活動サイクルの再検討を行っており、市に対する政策提言や市民との意見交換の場についても、どのようなサイクル・スケジュールで実施すべきかを議論している。 こうしたことから、委員任期が 2 年で政策提言や議会報告会を実施されている岡谷市議会と、委員任期が 1 年で政策提言のほか議会への住民参画の取組を積極的に実施されている松本市議会の取組を調査し、今後の議論に反映させることとした。	
【岡谷市議会】 <対応いただいた方> 岡谷市議会 議長、副議長、事務局職員 <調査事項に関する説明の概要> [政策提言] 岡谷市議会基本条例に「議会は、政策立案機能の強化に努め、条例の提案及び議案の修正等により、積極的に政策立案及び政策提言を行うものとする。」と定めており、この規定に基づく政策提言を行っている。 1 年目の 5 月から各常任委員会において、政策提言に向けた調査・研究のテーマを決める議論をスタートさせ、2 年目の 10 月頃までの間に、行政視察、現地視察、議会報告会、各種団体との懇談・意見交換、市の関係部署と	

の懇談・意見交換、アンケート調査、勉強会等を行いながら、提言書の素案を作成する。

委員長から議長へ提言書の素案が提出された場合は、全議員で構成する「政策討論会議」を11月から12月にかけて開催し、委員会から提言内容が説明されたあと、質疑や自由討論を行う。

政策討論会議における意見等は、常任委員会で整理し、成案を取りまとめて議会運営委員会に諮り、決定後、議長から市長に提言書を提出する。

提言書の提出時には、常任委員会の委員長も同席し、執行機関側からは、担当部長等が同席している。

なお、常任委員会でまとまらず素案が提出できない場合や、政策討論会議で議会の総意とならない場合など、政策提言に至らなかった場合は、調査・研究の内容等を報告書としてまとめ、議長へ提出する。

政策提言に対し、市側からは回答等を得ていないのが現状であり、議会としては、提言を次のステップにつなげるためにも、市側からの文書による回答等を要望しているところである。

提言後の振り返りや検証の仕組みの構築、また、政策提言が次年度に反映されるようなスケジュール感が課題であると認識している。

常任委員会の任期2年間という限られた期間ではあるが、行政視察、議会報告会、市民との意見交換、勉強会など、政策提言という目標・目的を持って様々な活動を行うことができるため、大変有意義な取組であると認識している。

行政課題の解決策の提案に向けた議会全体としての取組であり、委員会の活性化及び政策立案機能の強化にもつながることから、今後も引き続き政策提言を実施していきたいと考えている。

[議会報告会]

議会基本条例に理念として掲げている「市民とともに歩む議会」を目指して、市民に議会の活動状況を報告するとともに、議会や市政等に対する市民の声を直接聴取し、市民意識の把握や分析を通じた議会機能の強化を図ることを目的に議会報告会を開催している。



議会報告会のアンケートで、今後の議会報告会の開催方法等についての意見を聞いており、それを踏まえて次年度の開催日時、場所、回数、テーマ等を検討し、実施しているため、開催方法等が変化してきている。

当初は、対面式で実施していたが、市民の皆さんが意見を言いやすい雰囲気をつくるために、前段は対面式で議会報告を行い、そのあと、3つの常任委員会に分かれて意見交換を行う形式に変更した。

参加者の確保に向けては、市の各施設へのチラシ掲示、市議会のホームページやフェイスブック、市議会だよりへの掲載、報道機関への記事掲載のお願いによる広報のほか、各種団体への出席依頼を行っている。

60歳以上の参加者が多く、若い世代の出席が少ない傾向にある。

令和5年度のアンケートの結果では、議会活動報告の内容が「分かりやすかった」との回答が80%、意見交換会の内容が「よかった」との回答も80%という評価であった。

今後、多くの市民、特に若い世代が参加しやすい内容等の検討も必要と考えているが、マンネリ化しないように様々な手法を検討しながら、引き続き議会報告会を実施していく。



議会報告会の案内チラシ

<委員の所感>

[政策提言]

- ・ 2年任期で執行機関とも調整しながら調査研究と提言の取りまとめを進められていることから、執行機関側が施策の実行を遅らせることにつながる懸念がある。
- ・ 政策討論会については、調査研究を行ってきた委員と委員外議員では温度差もあり、取りまとめに苦慮すると思われることから、常任委員会における議論の段階から、委員が所属する会派の意見も踏まえて進めていくほうがいいのではないかと感じた。
- ・ 政策提言書には、経過や調査研究の内容等も記載され、丁寧で良いものになっていたが、それをバックデータとしながらも、提言内容だけをシンプルに記載したほうが分かりやすい場合もあると感じた。
- ・ その時々課題と思われる事項をテーマに選定されていたが、計画的に市の課題を解決していくという点では、総合計画を基にテーマを選定する

本市議会の方法が有効であると感じた。

- ・ 委員任期にあわせて2年間で政策提言が取りまとめられ、提言書には、現状、課題、調査の経過などが詳細に記載されていたが、委員会間の差も見られたことから、記載要領については、ある程度統一するほうが望ましいと感じた。また、課題として挙げられていたように、提言に対する回答は必要であり、追跡調査はすべきである。
- ・ 議会として政策提言を行うためには、全議員の総意として提出することが理想であり、本市議会は、全議員への報告の形をとっているが、岡谷市議会の政策討論会議のような場が必要であると感じた。
- ・ 各委員会の政策提言を議員全員が十分に理解し、議会全体の意思として提言することが重要であると思うことから、岡谷市議会が政策討論会議を経て政策提言を行っている点については、本市でも取り入れる方向で検討するべきであると感じた。
- ・ 政策提言までのフローとしては、2年を1サイクルとしており、これにより充実した内容の政策提言になると思うことから参考にすべきである。
- ・ 2年の任期のメリットとして、中身をしっかりと精査することができ、より深く充実した政策提言につながるのとのことであったが、2年の間に情勢の変化によって提言の意味が失われてしまう可能性や、委員以外の一般質問等を通じて執行機関の見解や回答が出てしまうことへの予防策が確立していないなどの懸念事項があり、これらを上回るほどのメリットは感じられなかった。
- ・ テーマの選定に当たっては、そのときに課題となっている事項や注目されている事項を取り上げられており、これを2年間で政策提言につなげる上でのスピード感は気になるが、本市議会とは少し違う考え方で選定されていることから参考にしたい。
- ・ 政策討論会議を設置して議論した上で提出されている点については、本市議会の議会運営委員会や議員協議会による議論との違いを研究していきたい。
- ・ 2年間の調査活動を経て提言が行われているが、2年間をかけて調査し、提言することが妥当と思われるテーマが選定されていると思う。
- ・ 議会報告会・意見交換会は、市民とのコミュニケーションが図られるようにテーマを設定し、取り組まれていると思う。



〔議会報告会〕

- ・ 参加者募集における周知の方法として、各区長さんから全市民にチラシの配布ができる仕組みを整えておられる点は、本市議会でも取り入れるべきではないかと考える。
- ・ 2部制で、議会報告をしたあとに常任委員会ごとの意見交換を行う方法もいいと思うが、会場の確保や参加者に移動していただくことなどを考えると、現在の本市議会の方法がいいのではないかと感じた。
- ・ 議会の取組をなるべく多くの市民に知ってもらうためには、議会報告会は効果的であると思う。本市議会でもFM放送など多くの方法を駆使しているが、労力と効果についての再検討が必要である。
- ・ 本市議会は、政策提言を見据えた意見交換会であり、意見を求める形になっていることから、岡谷市議会のように、議会報告と意見交換を同日に実施する方法も検討する余地はあると思う。
- ・ 参加者の確保に向けて様々な方法を用いて努力されており、各回の参加人数の差や年齢層の偏りはあるものの、平均すると多くの参加者があり、マンネリ化しないように手法の検討も続けられていることから、本市議会も見習うべきである。

【松本市議会】

<対応いただいた方>

松本市議会 議長、議会運営委員会委員長、同副委員長、事務局職員

<調査事項に関する説明の概要>

〔議会への住民参画に関連する取組〕

松本市議会では、議会基本条例に基づく施策の推進組織として、「政策部会」「広報部会」「交流部会」を設置しており、このうち「交流部会」が市民参加や市民との連携などに関する取組において中心的な役割を担っている。

「市民意見募集制度」は、郵便、FAX、電子メールで寄せられた意見や提言を全議員に配布し、議員活動に反映するとともに、必要に応じて回答するもので、議会だよりなどで周知している。「ステップアップ市民会議」からの提言を踏まえ、現在は、「議会への手紙」に改称している。

寄せられる意見等には、議会としての見解を求めるものや、自身の意見を表明するものなどがあり、その対応方法としては、議員に周知するものや、議会運営委員会において協議した上で回答するものなどがある。

「各種団体との意見交換会」は、ワールドカフェ方式で実施しており、初めの15分程度で議会活動・市政課題の報告を行ったあと、あらかじめ設定されたテーマで意見交換を行う。

各種団体を対象とするパターンと地区住民を対象とするパターンがあり、各種団体の場合は、団体と調整し、その団体に応じたテーマで実施することとして、参加者も団体に調整願っている。

地区住民を対象とする場合は、地区の課題を基本に地区でテーマを選定いただき、参加者の調整も地区にお任せしている。

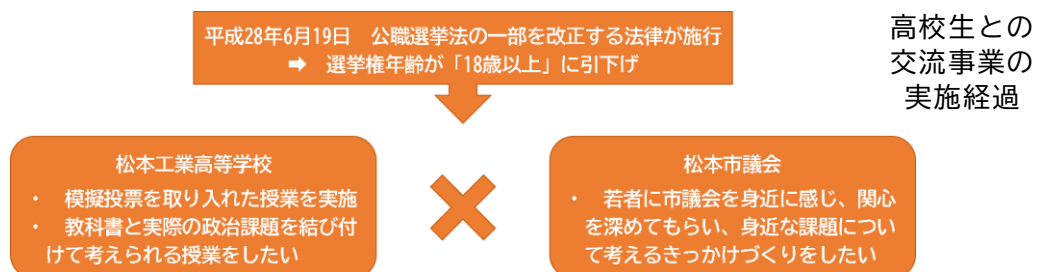
「ステップアップ市民会議」は、市議会の運営等に関する市民からの意見及び提言を反映させ、市議会への市民参加の推進と開かれた市議会の実現を図るもので、平成22年度の第1期から平成27年度・28年度の第3期まで実施した。

公募による18歳以上の市民20人以内で構成することとしており、議会側からも数名が参加して意見交換や議論を重ね、議会に対する提言をいただいている。

第3期では、「若者と市議会議員との交流を通じた政治との距離を縮めるような場の創出」と「若者や子供向けの議会だよりの発行」について提言があり、これに基づいて大学生等との意見交換会を実施したほか、「市議会こどもだより」の創刊に至った。

「高校生との交流事業」は、選挙権を有する年齢が18歳に引き下げられたこともあり、高校の教諭から「教科書と実際の政治課題を結び付けて考えられる授業がしたい」との提案からスタートしたもので、高校生と議員でグループワークを行っている。

グループワークで出た質問や要望を踏まえて生徒が話し合い、生徒による議会への請願につながったケースもあった。この取組は、高校の「公共」の教科書にも取り上げられている。



[政策提言]

常任委員会ごとにテーマを設定し、先進地視察、関係団体との意見交換等を通じて研究・検討を進め、その結果を「政策討論会」で議論し、政策提言

書として市へ提出している。

政策討論会は、全議員で構成しており、各委員会から提言案や調査研究結果が発表され、全議員で議論することによってブラッシュアップを図っている。

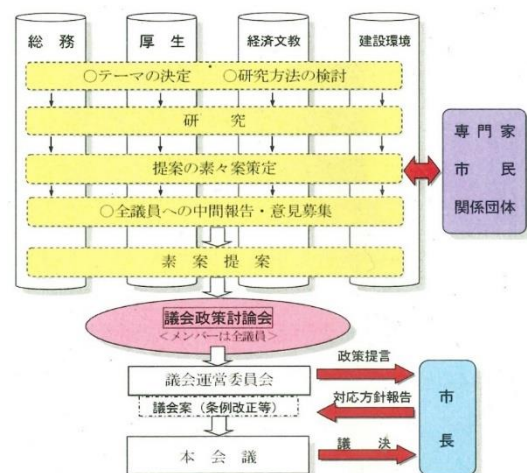
なお、政策提言に至らないものは、常任委員会から議長へ調査研究結果報告書を提出している。

市への政策提言に対しては、その対応方針について、書面により報告を受けている。その内容は、提言事項ごとに現状と対応方針が簡潔に記載されており、「提言を踏まえて何々を実施する」というような具体的な記述があるわけではない。

常任委員会と政策提言の在り方については、過去に議論された経過があり、常任委員会については、議員定数が減ったことも踏まえて、委員会数の減と委員の2年任期制について検討された結果、1委員会当たりの議員数が少なくなったことにより、議員1人当たりの発言の重みが増し、かえって活発な議論がなされていることなどから、4常任委員会制を継続することとなった。

委員任期については、専門性を深める観点から2年任期にすべきとの議論もあったが、4年間の任期中に、より多くの常任委員会に所属できることや、専門性を深めたい場合は、再任により複数年所属することが可能であることなどから、1年任期制を継続することとなった。

また、政策提言については、1年間の任期の中で、調査研究テーマの設定から政策提言まで行うことは日程的に厳しいなどといった意見はあったものの、時代の趨勢に合ったスピード感ある調査研究及び政策提言をしていくためには、1年間での取組が望ましいとの結論が出された。



政策提言までの流れ

<委員の所感>

[議会への住民参画に関連する取組]

- ・ 大学生や高校生などの若者との意見交換が積極的に実施されており、本市議会においても、わがまちトークとは別に、若年層を対象として意見交換を検討してもいいのではないかと感じた。
- ・ 基本条例に基づく取組の確認と課題整理を5年ごとに行うこととされて

いたが、議員任期を考慮し、2年、4年のサイクルで実施するほうが効果的ではないかと感じた。

- ・ ステップアップ市民会議など市民との交流に力を入れておられ、市民からの意見・要望も取り入れられている。議会への市民参画については、本市議会においても、意見交換会のほか、出前講座なども含めて効果的な手法を検討する必要があると思う。
- ・ 多様な取組により住民参画が進められており、特に、高校生との交流と、その後の請願につながった取組は興味深く、本市議会でも参考にすべきであると感じた。
- ・ 市民意見募集制度（議会への手紙）は、議会から回答している例は少なく、それを期待する市民からは不満もあるのかもしれないが、各議員の支持者を通じない意見として、世論が分かりやすく、いい取組だと思う。
- ・ ステップアップ市民会議については、厳しい意見もあるかもしれないが、参考とすべき取組である。ただし、本市の場合、人口が少ないため、人選に苦慮すると思われる。



[政策提言]

- ・ 時代の変化が速い今日、2年に1回の政策提言では、問題点を熟慮するうち、執行機関が答えを出してしまうことも考えられる。市民からの要望も、2年後に執行機関に回答を求めるのでは遅すぎるのではないかと思う。
- ・ 時代の流れが速いことも踏まえて1年サイクルで政策提言が行われており、提言に対する回答も得られていたことから、本市議会でも1年サイクルが望ましく、回答も得ることが必要であると感じた。
- ・ 1年でこれだけのボリュームの提言書を作成するとなると、委員の役割分担もしっかりとしたものにする必要が出てくるほか、議会事務局との連携もあわせて考える必要がある。
- ・ 人口規模や議員定数は本市と大きく異なり、委員任期の検討結果も本紙と違い1年任期という結論を出されているが、その検討経過における意見や理由には納得できる部分もあることから参考にしたい。
- ・ 1年サイクルで政策提言が提出されているが、提言書を出す委員会と出さない委員会があるなどの点で一定統一すべきであるとは考える。また、提言に対して文書で回答を得ている点は素晴らしいが、もう少し議会に寄り添った内容を求めたほうが、市民から見ても、議会と執行機関が責任を

もって市政運営に取り組んでいることがよく分かると考える。

- ・ 提言書の内容は、取組の経過等も含めて詳細に記載しており、1年サイクルのなかで、毎年これだけボリュームのある提言書をまとめられていることに感心した。
- ・ 1年サイクルで議会活動は忙しいと思うが、そのときのタイムリーな課題にスピード感と責任感を持って取り組まれていると感じた。
- ・ テーマによっては、大きな課題や時間を要する課題もあり、提言に至らなかった場合、報告書として提出し、引き続き取り組んでいく姿勢は参考になる。
- ・ 議員全員で構成する政策討論会議において提言書の案が示され、委員外議員から積極的に意見が出されていることに感心し、本市議会との違いを感じた。
- ・ 毎年着実に実施され、書面での回答も得られているが、委員長の力量が大きく影響すると思われ、委員長のサポートや執行機関との調整をいかにできるかが重要になると感じた。

[その他]

- ・ 議会基本条例に基づく取組の推進組織として、「政策部会」「広報部会」「交流部会」を設置し、全議員が、いずれか1つの部会に属することを基本として、議員自らが企画・立案、運営する組織としている点は、ともすれば、議会事務局や委員長・副委員長などに任せる傾向があるだけに、全議員による自覚的な組織として重要であると考えている。

<視察を実施した効果等>

いずれの市議会の取組も、本市議会の取組の参考となる部分があり、委員からも本市議会に取り入れるべきとの所感が寄せられていることから、今後、本委員会において議論していくこととしたい。